モニター会議概要

人は互いに支えあっている。食料生産は農業者の誇り

当研究所の事業を推進する中で、現地の実態を的確に把握し、その中から改革方向等を積極的に発信している新進気鋭の農業者と連携することが重要だと考えました。現在、全道各地で九名の方にモニターを委嘱しています。

平成二三年一二月一五日モニター会議を実施し、現地モニターの方々と営農をめぐる状況、現地の農業情勢について率直な意見交換を行いました。以下にその内容を紹介します。

■出席者（敬称略）■

・音更町　津島　朗（畑作経営）
・北見市端野町　和崎　陽一（畑作・野菜経営）
・美唄市　貞広　樹良（稲作・畑作経営）
・中富良野町　加茂　俊幸（稲作・野菜経営）
・名寄市　中野　康則（稲作・野菜経営）
・一般社団法人　北海道地域農業研究所
・専務理事　大坂　雅博
・特別参与　黒澤不二男（司会）
・事務局長　小林　久人
・専任研究員　經亀　諭

大坂　今年七月に就任いたしました。よろしくお願いします。研究所は昨年節目の二〇周年を迎え心機一転がんばっているところです。来年4月から非営利型一般社団法人に移行しますが、この機会に当研究所に期待されていることを深く考えていきたいと思います。

また当研究所の名前にも会報にも「地域」の言葉が入っています。地域に一番根ざしている皆さんの生の、最新の情報を会員へ伝えていきたいと考

えています。今日はよろしくお願いします。

（左）黒澤特別参与と（右）大坂専務理事

黒澤　八名の方にモニターをお願いしていましたが、今日は名寄市の中野さんにも参加をしていただきました。総勢九名のうち五名出席です。中野さんは、「北海道農業公社」から委託された事業「新規就農者の定着条件」について調査する際に、道外出身の新規就農者の一人として「北海道農業担い手センター」から紹介されました。道北ブロックであり、経営内容や他の農業者との交流を強く希望していることをお聞きし、新たにモニターをお願いしました。

なお「地域と農業」に今日の懇談のエッセンスを載せたいと思っております。

さて、最近は「ＴＰＰ」に関しての話題が多くなりました。そこで最初に皆様にもこのＴＰＰについてお聞きしたいと思います。

今日（一二月一五日）の報道で「ＷＴＯの協議はまとまらず事務局がドーハラウンドを放棄する」とありました。（後日農水省からＷＴＯ閣僚会議概要について「ドーハ・ラウンド交渉の行き詰まりを認めつつ、部分合意も含めた新たな手法により打開の道を探る」と発表された）先行するＦＴＡ・ＥＰＡ交渉についても、内容は始まってみないと判らないという状況です。

ＴＰＰに関しては「もっと学習」「もっと議論」「もっと発信」が求められています。

通商交渉のルールや特約条項なども、これまで交渉にあたった外務、通産、農水の官僚でなければよく判りません。我々農業関係者は状況を踏まえて発信する必要もあります。反対だといっているばかりでなく、有効な反論をするためにも、推進派の言い分も聞かねばなりません。これから二年ほどかけてその中身が決まっていきます。その過程の中で皆様がたの意見が大切なのです。

大手新聞の大半は「交渉をやってみなければわからない。だからやってみ

よう」で一致しています。みな痛みを伴う部分に鈍感であまり取り上げていません。傷を負う部分に関しての声が紙面に反映されているか疑問です。もっと地域の声を拾うことが大切なのです。

前段が長くなりましたが、皆さんの自己紹介をお願いします。

自己紹介と現在の状況

音更町　津島さん

津島　音更町の畑作農家です。小麦、てん菜、大豆、金時、小豆、スイートコーン、人参、馬鈴薯の八品目を栽培しています。作付面積は九七haです。

国策が変わるたびに「これでいいのか」という思いになりまして消費者と触れ合うようになりました。十勝川温泉との連携で修学旅行生などの農業体験、民泊などの受け入れを行っています。

和崎　北見で馬鈴薯、小麦、てん菜などを作付けしています端野町農業情報研究会で簿記情報を利用し、経営分析に活用しています。二月に指導農業士に認定され、自ら伝える努力の大変さを経験しています。

貞広　美唄で稲作中心に小麦や大豆を作付けしています。消費者と直接触れ合うために夏は直売場、冬は味噌づくりなどの加工体験を行っています。修学旅行生の受け入れや青年会議所で他業種の人とも交流しています。

加茂　中富良野でたまねぎや、米、馬鈴薯、大豆など作付けしています。修学旅行生の受け入れは私の地区でも実施しています。実体験を通して、間近で見てもらい感じてもらうことが大切と思います。農家自らも発信していきたい。

中野　神奈川県茅ヶ崎市の出身です。一二年前の二六歳の時、農業をやりたくて、名寄の夏井さん（指導農業士）を紹介されました。四年間の研修後、平成一五年に土地を購入して農業を始めました。

就農を始めた名寄市中名寄地区は稲作中心ですが、野菜作りから始めました。地域の方々にも優しくしていただきました。平成一九年からは稲作にも取り組みました。複合経営ですが稲作とトマト作りの時期が非常にあっています。今後は規模の拡大より商品の付加価値を高めていきたいと思います。

黒澤　中野さんの話を補足しますと、奥様も北海道で農業を希望し酪農家で研修をしていました。

新規就農者が稲作から始める例は珍しいことです。新規就農者の間では「稲作はロマンがない。野菜や花卉はやり方によってビッグチャンス」という考えがあります。中野さんは「稲作は機械化も進み作業時期も標準化されている。稲作の収入が安定しているので、他のやりたいことが出来る」と考えています。

中野　新規就農のメニューは畑作、野菜、花卉が多いです。「稲作はだめだ」と発言する人もいますが栽培体系が確立され、農協の集荷体制、共済なども安心できるので経営が安定できます。

こういう情報が新規就農者には必要なのです。稲作地帯は一番高齢化が進んでいます。地域の担い手センターは新規就農者のメニューに稲作も加えて欲しいです。

稲作と野菜などを組み入れる複合経営で、経営は安定します。

黒澤　稲作の例で話しますと由仁町で稲作農家が婿さんに新規就農させ会社組織にして、稲作、おにぎり屋、直売所などを経営しています。経験の乏しいお婿さんであっても、地域のサポートによって夢がかないました。

さて今年1年のトピックスについてお話し下さい。

今年の話題

津島　温泉と連携して体験農場を行いました。京都から一校、八クラス(三〇〇名ほど)を自分の農場で受け入れました。来年は三校の予定があります。地元の温泉や、ネイチャーセンター、役場、他の生産者などの協力で実施することが出来まし

農業体験

た。農業の実態を事前に説明して、台風後でしたがイモや、スイートコーンの収穫体験、トラクターの模範演技も見せました。私の知人に、民泊受け入れを積極的に行っている近江さんという方がいます。出身は東京で漁師をやりたく道内を探し、浦幌町で受け入れられました。自分の獲ったシシャモを加工して楽天市場の水産部門でナンバーワンを取った経験もあります。

「漁協を無視して自分で全部やる」と天狗になった時期がありました。ところがある日、時化で船が転倒して死にかかった時、周りの船団が漁の最中にもかかわらず、中断して助けに来てくれました。そんなことから実は「人は支え合っている」。特に農業は大地が相手なので自分ひとりでは何も解決できない。「支え合うのが全て」と考えるようになりました。浦幌のためにNPO法人「日本のうらほろ」を立ち上げました。また近江さんは「食料は農村に支えられている」ということを知らない都会の子供たちに、講演を行い、都市と農村の橋渡しをしています。さらに住友や三菱などの大手企業から幹部研修に農家民泊の希望があり、その研修は朝三時から搾乳や糞尿処理など多くの作業を体験させ、夜はグループディスカッションまでさせています。彼らの至った結論は「牛乳は安すぎる」ということでした。

生産現場を知ることで食料や命の大切さを改めて分かり、「企業理念の中にどう入れていくか」まで広がりました。私は「今の農業は安さと安全の話ばかりだが、本当はその国の価値観を担っている」と考えています。

和崎　二月に指導農業士に認定されました。先日酪農学園大学で講演をしました。初めてのことで事前準備をしっかり行いました。貴重な経験でした。講演終了後ある学生が「有機農業をやりたい」と言ってきました。私は「目標として持っているのは良いことだが、まず普通のやり方を経験してから有機農業のよさを自分なりに考えて、それから目指してごらん」と話しました。

また、パソコン簿記の研修会を一〇年続けています。後継者も育っていますが、データの分析まで出来る人は少ないのです。平成二〇年から国の生産費調査を実施していますが、まだまだデータ活用が出来ていません。農民連盟でも中央活動のために、有効に使っ

端野町　和崎さん

て欲しいのです。

黒澤　生産費については、統計情報事務所の方では、個々の経営改善に対しての利用という面をあまり重視していないように感じられます。和崎さんが経営情報研究会で取り上げ、関連付けているのは素晴らしいことですよね。大変参考になりました。

貞広　美唄では地元の農産物、米やハスカップを使っての商品開発に努めています。平成一七年から米粉研究会が活動し、その会長が市長になり、私が会長を務めています。価格は高くなりますがその特長を活かして広げていきたいと考えています。

美唄市　貞広さん

加茂　中富良野の担い手協議会でも修学旅行生を地元の農家で受け入れをしています。三時間ほどの体験ですが、今日の出席者の意見を聞いて、いろんな機関の協力が必要と感じました。震災の影響で観光客は減りましたが、いろんなニーズを農業体験に取り入れ、さらに仕掛けていきたいと思います。TPPについてですが、単に団体でメディアに「反対」といっても思いは伝わりません。一国民として、一農家として普段やっていることを見てもらいながら、継続的に伝えていかないと先行は不安です。

黒澤　中富良野は美瑛と富良野の観光ゾーンの中に位置していますが、体験や交流の面で活かしきれていないことを感じているようです。津島さんの十勝の取り組みは温泉に限らず次々と展開しており、さすが十勝と感じました。富良野・美瑛は観光地として有名ですがそれに安住せず、「新たな取り組みを模索することが必要だ」という提言は有意義ですね。

中野　名寄市は観光真空地帯です。ガイドブックにも名寄の紹介は少ないと感じます。新規就農して一〇年になりますが、少なくとも観光地ではありません。自衛隊と農業の町で、民間企業も少ないが安定した町です。

　都会ではお金を払ってでも草取りを体験したい人もいます。名寄は「観光バスで来てすぐ帰る」従来型ではなく、長期滞在を考えたほうが良いと思います。それも「畑と土地を付けて、家を建ててもらったらお金を渡します」ではなく、「どうしたら都会の人が田舎

に住んでもらえるか」を考えるべきです。単に「空気がきれい、水がうまい、だから来てください」ではなく。以前、市長さんにお会いした時に「パンフレットの作り方から変えましょう」「都市銀行はどこが使えるか、病院は近いか、コンビニがあるか、TVはどこの局が映るかインターネットは、下水道は、などの情報が必要です」と話しました。日本全国で今のような考えでパンフレットを作っているところは少ないのではないでしょうか。

加えて「札幌まで都市バスで三、〇〇〇円」「飛行機も東京から札幌・旭川まで安くこれる」ことも。アッピールする場所は池袋や有楽町の道産品の店で、不動産会社の人々も集めて話をすればよいのではないでしょうか。市長との会合でも「お金を持っている人は高齢者じゃないのか」との意見もありました。名寄にログハウスなどを建てられる資金力のある人は、孫や子供たちに名寄の良さを話します。「土地代をタダにするから定住して欲しい」という考えではなく、孫や子供たちに来てもらえる仕掛けが大切です。将来的に自分も今の考えを広く実行したいと思っています。農家の人に話をしたら、「北海道の人はもともと本州出身者だ」「新しい人を受け入れる下地は十分ある」と話してくれました。こういう魅力を名寄は都会に発信して欲しいのです。

トマトジュースの関係で法人を立ち上げたときの話をしますと、新規就農で夏井さんにお世話になっている時、仲間の福島さんと「同じ農業をやるなら都会の人にアッピールできる加工品を作ろう」と話し、平成一九年から始めました。生食用のパック詰めは作業が深夜まで続き、価格も夏場は安く、また、製品歩留まりも悪かったのです。ロス分をジュースにして飲んでみたら、ものすごく甘く、他にない商品が出来、飲食業の方にも好評でした。

名寄市　中野さん

今、名寄市の施設を借りて生産していますが、将来、加工施設を増強する考えを持っています。自己資金で加工施設を作るのは大変なので、道などの補助を考えています。ただ、農水省から自分で生産から加工、販売まですると「六次産業」に該当しないといわれ、困っているところです。

黒澤　それぞれ関連する人が取り分を取って全体を大きくしようというのが国の「六次産業化」に対する考えです。農業も、加工や流通もみんなで活性化

しましょうということです。しかし、現状は農家の取り分が一番少なく、次が加工で、流通サイドが一番多いと思います。農水省の補助事業のリストに載るかではなく、出来るなら一から三次の働きを農家がやってもいいのです。次に、少し作物の特性に関して話をしてください。

今年の作物の様子

津島　音更町ではサツマイモを莫子用、自家用に広範囲で作っているようです。宮崎の端境期を狙ってマンゴーを作っている人もいます。巨峰やリーキ、ナタネも増えているようです。

農業政策がぶれると十勝では何でもやります。TPP賛成派の人は輸出製品を考えています。都会から来た人の話を周りが素直に聞けるかが焦点だと思います。

トマトの体験農場もしています。トマトの本物の味は現場でしか味わえません。気候の変化が栽培品目を変えてきています。今年はわずかの作付けですが、米は大豊作でした。近年小麦の収量や品質が落ちています。十勝でも米と小麦のリスク分散が必要かもしれません。

和崎　北見でもてん菜、小麦は平年を下回りました。特に小麦は悪い。てん菜について生産費だけでなく流通経費を含めた経営分析を一〇数年続けています。機械への過剰投資は正しくないと感じている。当時は収支も良かったのですが最近は儲りません。肥料の高騰も影響していて、農協のデータで予測すると一ha当たり三万円もかかります。三割が肥料代です。経費を抑えて収量がそこそこで経営が安定するようにならないとだめです。タマネギの収益性が今は良いが、農業政策の変化でタマネギばかり増えるのでは？そして減収になってしまう。タマネギばかりに依存ではなく他作物を作ることを考えなければなりません。

貞広　稲作ではいもち病が流行りましたが収量は良かった。今後は手取りを安定させることです。原発事故の影響で道産米の需要が多いです。ネットでの個人注文が多いです。

加茂　富良野地区のタマネギは春先の天気が悪く、夏には高温、旱魃と収量に影響が出ています。昨年も悪かった。複合経営を行っているが他作物も悪かったです。米は安定しています。

地域農業研究所への注文

黒澤　稲作に関しては我々の予断と少し違うようですね。さて次に「地域農業研究所」への注文、期待など厳しい意見をお願い致します。

津島　どの職業も価値観があります。後継者の対策も含めて「農業者が食料

を生産している」ことを堂々ともっと誇りに思えるようにならなければなりません。消費者も農業者を応援するようにならなければならないみんなで価値観を作って生きたい。スイスでは卵が一個七〇円で売られています。国民が当たり前と思っています。この価格だから卵屋や養鶏農家が成り立っています。成り立たなければ卵が食べられなくなります。このような価値観を持っているのです。

日本でも国民が食料に対して同じイメージを持って欲しい。農家も同様な意識が必要です。発信力を持ち展開できる源のシステム作りに加わりたいと考えています。

和崎　ギャップを感じていることは、農協の幹部が話していることと農連で話していることの食い違いが多くなっていることです。地域の考え方が共有できていません。網走管内でも畑作、酪農、などのエリアに分かれているから、纏めるのが難しいのでしょうか？研究所で地域の特色など先進事例などをＰＤＦなどに纏めて欲しい。ホームページを通して検索できるようにして欲しい。話は変わりますが、日本の農業のよさは「家族経営で成り立っている」ことです。外圧などで苦しい今も、家族の協力で頑張ってここまできています。

黒澤　ＰＤＦ化は取り組んでいるところです。

顧客満足とは

加茂　価格満足度と顧客満足度は同じでないと思います。タマネギを売り込みに行って経験しました。高くても買ってくれるところ、安くなければ買ってくれないところ様々だ。価格と顧客満足度の関係に参考になるものが欲しいです。

中富良野町　加茂さん

黒澤　ある一定の範囲の中にコンビニ、量販店、などがどのように存在してその商圏に人口はどのくらいいるか？人の流れは？などの研究は多いと思います。加茂さんの指摘を加味して考える必要があります。

中野　東京の取引先から「農家の人は『こだわって美味しいものを作った。これが付加価値でしょう』と話すが、付加価値は消費者が決めると」といわ

れた。農家の人が消費者の求める付加価値をわかって初めてモノが売れます。消費者が望んでいることに応えることが大切です。

「農家は、農産物を作ってモノを売るだけが仕事ではない」といわれたこともあります。

同じように「都会の人はいろんな問題を抱えている。たとえば非正規雇用・リストラなど心を悩ます問題が多く存在します。それを癒すのは医師だけではなく、一次産業の人の力が大きい。一次産業の人たちはそういう価値も持っている。農業体験や新規就農には癒す役割もある」と言われました。私たちが時間をかけて、協力して考えている社会を作れば日本の農業も変わるのです。

黒澤　私の考える付加価値は「標準的な生産原価にどれだけの幅で上積みできるのか、あるいは通常の利益率をかけた上でさらにどのくらいの幅で上積みできるかだ」と思います。中野さんの指摘は生産者が分析してデータを持ってユーザーと交渉できるかということだと思います。

皆さんからそれぞれの問題意識、地域における関連機関のあり方の話などがありました。農協と農連の認識度の違いは戦線を統一していかなければなりません。

ＴＰＰの国際交渉も秘密裏に進められるでしょう。全権を委任されている交渉団も「日本としての妥協点、譲れない点」をしっかり固めないと返事は出来ません。意見の幅がある部分を集約する形に体制として出来るかが大きな焦点です。時間も参りました専務から総括を兼ねて挨拶をお願いします。

感動の輪を広げる

大坂　貴重なお話をありがとうございます。良いお話を聞くことが出来ました。皆さんの失敗や成功の経験に基づくお話が説得力もあり実に印象的でした。カミシモを着ない話が大切です。会報作成に当たり、皆さんが現場で活躍している臨場感を伝える紙面作りをしてまいりたいと思います。変化を恐れず、農協や連合会が手前味噌で取り組めないような仕事も研究所であれば、より的をしぼって出来ると思います。

「感動した」「うれしかった」の輪を大きく広げていきたいと思います。これからも手厳しく、率直な意見を聞かせてください。本日はありがとうございます。